



# CHAPTER 35

## Cisco Unity Connection 8.x でのサービスパラメータの設定



注意

この章の情報は、Cisco Unity Connection の設定だけに適用されます。Cisco Unified Communications Manager Business Edition (CMBE) をインストールしてある場合の、サービスパラメータの構成については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/prod_maintenance_guides_list.html) から入手できます。

Cisco Unity Connection のサービスパラメータでは、Cisco Unified Serviceability のさまざまなサービスを設定できます。サービスパラメータの設定ウィンドウで疑問符のボタンを選択すると、パラメータのリストとそれぞれの説明を表示できます。特定のパラメータを選択すると、一番上にそのパラメータがあるリストを表示できます。

Cisco Unified Serviceability でサービスをオフにした場合、Connection は、更新されたサービスパラメータの値を保持します。サービスを再起動したときに、Connection は、変更された値にサービスパラメータを設定します。

Cisco Unified Serviceability サービスの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手可能です。



注意

サービスパラメータの一部の変更は、システム障害の原因になることがあります。変更する機能について十分に理解しているか、または Cisco Technical Assistance Center (Cisco TAC) が変更を指示された場合を除き、サービスパラメータを変更しないでください。

次の項を参照してください。

- 「Cisco Unity Connection 8.x の Cisco Unified Serviceability サービス用サービスパラメータの設定」(P.35-1)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のサービスパラメータの説明」(P.35-2)

## Cisco Unity Connection 8.x の Cisco Unified Serviceability サービス用サービスパラメータの設定

次の手順を使用して、Cisco Unified Serviceability サービスのサービスパラメータを設定します。

## Cisco Unified Serviceability サービスのサービス パラメータを設定する方法

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ システム設定 (System Settings) ] を展開し、[ サービス パラメータ (Service Parameters) ] を選択します。
- ステップ 2** [ サービス パラメータ (Service Parameters) ] ページの [ サーバ (Server) ] リストで、Cisco Unity Connection サーバの名前を選択します。
- ステップ 3** [ サービス (Service) ] リストで、更新するパラメータを含むサービスを選択します。
-  **(注)** [ サービス パラメータ (Service Parameters) ] ページには、すべてのサービス (アクティブなサービスとアクティブではないサービス) が表示されます。
- ステップ 4** 必要に応じて、パラメータの値を更新します。サービスのすべてのサービス パラメータをデフォルト値に設定するには、[ デフォルトに設定 (Set to Default) ] を選択します。  
パラメータのリストとそれぞれの説明を表示するには、ページの右側にある [?] ボタンを選択します。
- ステップ 5** [ 保存 (Save) ] を選択します。

## Cisco Unity Connection 8.x のサービス パラメータの説明

表 35-1 に、Cisco Unity Connection のサービス パラメータの説明を示します。

表 35-1 サービス パラメータの説明

サービス パラメータ	説明
<b>Cisco AMC サービス</b>	
Primary Collector	クラスタ全体のリアルタイム情報を収集するプライマリ AMC (AlertMgr および Collector) サーバを指定します。値は、設定済みのサーバのいずれか (できれば、通話処理がほとんどないサーバ) と一致している必要があります。 必須フィールドです。
Failover Collector	フェールオーバー AMC (AlertMgr および Collector) サーバを指定します。このパラメータで指定したサーバは、プライマリ AMC がダウンしている場合、または到達できない場合にリアルタイム データを収集するために使用されます。Primary Collector がアクティブではなく、Failover Collector が指定されない場合は、データが収集されません。
Data Collection Enabled	リアルタイム クラスタ情報の収集とアラートを、有効 (True) または無効 (False) のいずれにするかを決定します。 必須フィールドです。 デフォルト設定 : True

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
Data Collection Polling Rate	<p>AMC 収集レートを秒単位で指定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 30 最小値 : 15 最大値 : 300 単位 : 秒</p>
Server Synchronization Period	<p>プライマリ AMC が動作し、アクティブに収集しているかどうかを判断するために、バックアップ AMC (AlertMgr および Collector) が起動時に待機する時間を秒単位で指定します。このパラメータによって、バックアップ AMC が、過度に早く収集タスクを引き継ぐことが防止されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、バックアップ サーバで AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 60 最小値 : 15 最大値 : 300 単位 : 秒</p>
RMI Registry Port Number	<p>RMI レジストリをオンにするポート番号を指定します。このポートは、プライマリまたはバックアップ AMC が他の AMC を検出し、RTMT サブレットがプライマリ/バックアップ AMC を検出するために使用されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 1099 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>
RMI Object Port Number	<p>RMI リモート オブジェクト用に使用するポート番号を指定します。このポートは、AMC が他の AMC および RTMT サブレットとデータを交換するために使用されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 1090 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
AlertMgr Enabled	<p>(AMC のトラブルシューティング専用) アラート (電子メール /epage) 機能を有効および無効にします。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
Logger Enabled	<p>(AMC のトラブルシューティング専用) ログ機能 (レポートを生成するための CSV ファイル) を有効および無効にします。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
<b>Cisco Database Layer Monitor サービス</b>	
Maintenance Time	<p>CDR データベース メンテナンスを開始する時刻を指定します。このパラメータは、Maintenance Window パラメータと組み合わせて使用します。たとえば、このパラメータを 22 に指定すると、CDR メンテナンスは午後 10 時に開始されます。Maintenance Window パラメータを 2 に設定した場合、CDR メンテナンスは午後 10 時から深夜 0 時まで、1 時間ごとに実行されます。両方のパラメータを 24 に設定した場合、CDR メンテナンスは一日中、1 時間ごとに実行されます。</p> <p>CDR メンテナンス中に、最も古い CDR およびそれに関連する CMR がシステムから削除され、Max CDR Records パラメータで指定された最大数のレコードが保持されます。また、メンテナンス中、CDR ファイル数が 200 を超えた場合はアラームが発生し、破損したサーバ間のレプリケーションリンクがチェックされ、その再初期化が試行されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 24</p> <p>最小値 : 1</p> <p>最大値 : 24</p> <p>単位 : 時間</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
Maintenance Window	<p>CDR メンテナンスを実施する時間の長さを指定します。たとえば、このパラメータを 12 に設定した場合、CDR メンテナンスは、Maintenance Time パラメータで指定した時刻から 12 時間、1 時間ごとに実行されます。たとえば、Maintenance Time パラメータを 7 に設定し、このパラメータを 12 に設定した場合、CDR メンテナンスは午前 7 時に開始され、午後 7 時まで、1 時間ごとに実行されます。両方のパラメータを 24 に設定した場合、CDR メンテナンスは一日中、1 時間ごとに実行されます。CDR メンテナンス中に、最も古い CDR およびそれに関連する CMR がシステムから削除され、Max CDR Records パラメータで指定された最大数のレコードが保持されます。また、メンテナンス中、CDR ファイル数が 200 を超えた場合はアラームが発生し、破損したサーバ間のレプリケーションリンクがチェックされ、その再初期化が試行されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 2 最小値 : 1 最大値 : 24 単位 : 時間</p>
Table Out of Sync Detection	<p>このパラメータを On に設定した場合は、データベース レプリケーション ステータスの概要が、メンテナンス時間中に毎日収集され、連続する 3 日間の出力と比較して、3 日間を通じて同期されていない表があるかどうか判断されます。同期されていない表がある場合は、警告が発生します。デフォルトでは、このパラメータは Off に設定され、Maintenance Time パラメータで指定した時間に実行されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : Off</p>
MaintenanceTaskTrace	<p>メンテナンス タスク トレースを設定します。メンテナンス タスクからパフォーマンス カウンタ トレースを取得するには、このパラメータをオンにする必要があります。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : Off</p>
<b>Cisco DirSync</b>	
Maximum Number of Agreements	<p>Cisco Unified CM Administration の [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory) ] ウィンドウ ([システム (System) ] &gt; [LDAP] &gt; [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory) ]) で設定可能な LDAP ディレクトリ (規定とも呼ばれます) の最大数を指定します。複数の LDAP ディレクトリを作成すると、複数の検索ベースからユーザを同期する際に役立ちます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>(注) パラメータ変更を有効にするには、Cisco DirSync サービスを再起動する必要があります。</p> <p>デフォルト設定 : 5 最小値 : 1 最大値 : 5</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
Maximum Number of Hosts	<p>フェールオーバー用として設定できる LDAP ホスト名の最大数を指定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、Cisco DirSync サービスを再起動する必要があります。</p> <p>デフォルト設定 : 3 最小値 : 1 最大値 : 3</p>
Retry Delay on Host Failure (secs)	<p>Cisco Unified CM Administration で設定した最初の LDAP サーバ (ホスト名) への接続を再試行するまでに待機する時間 (秒単位) を指定します。接続が失敗すると、同じホストへの再接続が 3 回試行されます。3 回目の試行も失敗した場合、リスト内の階層順で次のホスト名への接続が試行されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 5 最小値 : 5 最大値 : 60</p>
Retry Delay on HostList Failure (mins)	<p>Cisco Unified CM Administration で設定したすべての LDAP サーバ (ホスト名) への接続を再試行するまでに待機する時間 (分単位) を指定します。LDAP サーバへの接続は、Unified CM Administration で表示される順序で試行され、3 回の接続試行は、Retry Delay On Host Failure サービス パラメータで指定した待機間隔に基づいて実行されます。ある LDAP サーバへの 3 回の接続試行すべてが接続に失敗した場合は、リスト内の次の LDAP サーバへの接続が試行されます。リスト内のどのサーバにも接続できない場合は、エラーがログに記録され、次の同期間隔が経過するまで待機してから、リスト内の最初のサーバから接続が再試行されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 10 最小値 : 10 最大値 : 120</p>
LDAP Connection Timeout (secs)	<p>LDAP 接続を確立するために許可される時間 (秒単位) を指定します。指定した時間内に接続を確立できない場合、LDAP サービス プロバイダーは接続試行を中止します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 5 最小値 : 1 最大値 : 60</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
Delayed Sync Start Time (mins)	<p>Cisco DirSync サービスが起動してからディレクトリ同期プロセスを開始するまでの待機時間を指定します。ディレクトリ同期によって、LDAP サーバのユーザは、Cisco Unified Communications Manager データベースにコピーされます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、Cisco Tomcat サービスを再起動する必要があります。</p> <p>デフォルト設定 : 5 最小値 : 5 最大値 : 60</p>
<b>Cisco RIS Data Collector パラメータ</b>	
RIS Cluster TCP Port	<p>クラスタ内の Cisco RIS Data Collector サービスが互いに通信するために使用する静的 TCP ポートを指定します。注 : このパラメータの変更を有効にするには、クラスタ内の各ノードで Cisco RIS Data Collector サービスを再起動する必要があります。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、クラスタ内の各ノードで Cisco RIS Data Collector サービスを再起動してください。</p> <p>デフォルト設定 : 2555 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>
RIS Client TCP Port	<p>RIS クライアントが、クラスタ内の Cisco RIS Data Collector サービスと通信するために使用する静的 TCP ポートを指定します。注 : このパラメータの変更を有効にするには、クラスタ内の各ノードで、Cisco Database Layer Monitor サービスと Cisco the RIS Data Collector サービスを再起動する必要があります。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> パラメータ変更を有効にするには、クラスタ内の各ノードで、Cisco Database Layer Monitor サービスと Cisco the RIS Data Collector サービスを再起動してください。</p> <p>デフォルト設定 : 2556 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
RIS Client Timeout	<p>RIS クライアントが Cisco RIS Data Collector サービスからの応答を待機する時間 (秒単位)。各ノードで実行されている RIS Data Collector サービスでは、このパラメータで指定した値の 90% が内部で割り当てられます。複数のノードがあるクラスタに対してこのパラメータを正しく設定するには、クラスタ内で RIS Data Collector サービスを実行しているノード数の 4 倍 (以上) の値を指定します。たとえば、クラスタ内で RIS Data Collector サービスを実行している 7 つのノードがある場合は、この値を 28 以上に設定します。2 つのノードがあるクラスタでは、このパラメータを最小許容値の 10 (以上) に設定します。</p> <p>比較的高い値を選択すると、1 つのノードの RIS Data Collector サービスが、別のノードの RIS Data Collector サービスから応答を受信するために十分な時間が割り当てられます。応答に必要な時間は、ノードの処理速度、ノードに登録されているデバイスの数、サーバメモリの容量、コールの量などの要因、およびパフォーマンスに影響を及ぼすその他の要因によって変化します。注：このパラメータの値を推奨されるノードの 4 倍よりも低く設定した場合、Unified CM はこの値を内部で増加させ、ノードあたりに必要な最小秒数を確保します。実際の応答時間は、もっと短くなる場合があります。この値は、最大許容時間を示しているにすぎないため、比較的高い値を選択することによって、パフォーマンスが低下することはありません。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定：30            最小値：10            最大：1000            単位：秒</p>
RIS Cleanup Time of the Day	<p>使われていない情報、古い情報、デバイス情報を削除するために、RIS データベースがクリーンアップされる時刻を指定します。この時間中に、すべてのデバイスの NumofRegistrationAttempts パフォーマンス カウンタは 0 にリセットされます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定：22:00            最大長：5            許容される値：HH:mm 形式で時刻を指定 (06:11 など)            単位：時:分</p>
RIS Unused Cisco CallManager Device Store Period	<p>Cisco CallManager サービスからの未登録のデバイス情報または拒否されたデバイス情報に対して、RIS データベース情報保管期間を指定します。このパラメータで指定した時間が経過した後、Cisco CallManager によって、(RIS Cleanup Time of the Day パラメータで指定する) 次の RIS データベース クリーンアップ時間中に期限切れとなったエントリが削除されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定：3            最小値：1            最大値：30            単位：日</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
RIS Unused CTI Records Storage Period	<p>CTI Manager からのクローズされたプロバイダー、デバイス、またはラインの情報に対して、RIS データベース情報保管期間を指定します。このパラメータで指定した時間が経過した後、Cisco CTI Manager によって、(RIS Cleanup Time of the Day パラメータで指定する) 次の RIS データベース クリーンアップ時間中に期限切れのエントリが削除されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 1 最小値 : 0 最大値 : 5 単位 : 日</p>
RIS Maximum Number of Unused CTI Records	<p>RIS データベースに格納される、閉じられた CTI プロバイダー、デバイス、および回線の最大記録数を指定します。このパラメータで指定した制限を超えると、Cisco CTI Manager では、使用されていない CTI プロバイダー、デバイス、または回線の新しい記録は RIS データベースに保存されなくなります。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 3000 最小値 : 0 最大値 : 5000 単位 : レコード数</p>
TLC Throttling Enabled	<p>Trace and Log スロットルの動作を有効または無効にします。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
TLC Throttling IOWait Goal	<p>TLC スロットルが目標とするシステム IOWait 比率を指定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 10 最小値 : 10 最大値 : 40</p>
TLC Throttling CPU Goal	<p>TLC スロットルが目標とするシステム CPU 使用率を指定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 80 最小値 : 65 最大値 : 90</p>
TLC Throttling Polling Delay	<p>トレース収集のスロットリング用として、IO 待機と CPU 使用率のポーリング間の最小待機時間 (ミリ秒単位) を指定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 250 最小値 : 200 最大値 : 2000</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
TLC Throttling SFTP Maximum Delay	<p>タイムアウトを防止するために SFTP 転送を一時停止する最大時間を指定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 5000 最小値 : 1000 最大値 : 10000</p>
Maximum Number of Processes and Threads	<p>マシンで動作しているプロセスとスレッドの最大数を指定します。マシン上のプロセスとスレッドの合計数がこの最大数を超えた場合は、SystemAccess によってアラームが送信され、TotalProcessesThreadsExceededThresholdStart および対応する警告が生成されます。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 2000 最小値 : 1000 最大値 : 3000</p>
Enable Logging	<p>トラブルシューティング パフォーマンス監視データの収集とロギングが、有効 (True) または無効 (False) のいずれであるかを決定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
Polling Rate	<p>トラブルシューティング パフォーマンス監視データのポーリングレートを秒単位で指定します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 15 最小値 : 5 最大値 : 300 単位 : 秒</p>
Maximum No. of Files	<p>ディスクに保存されるトラブルシューティング パフォーマンス監視ログファイルの最大数を指定します。「Maximum No. of Files」を大きな数に設定する場合は、「Maximum File Size」を小さくすることを推奨します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p><b>(注)</b> この値を小さくすると、Troubleshooting Perfmon Data Logging が有効で、RISDC がオンの場合、タイムスタンプが古いものから順にログファイルが削除されます。必要に応じて、Maximum No. of Files を変更する前に、これらのファイルを保存してください。</p> <p>デフォルト設定 : 50 最小値 : 1 最大値 : 100</p>

表 35-1 サービス パラメータの説明 (続き)

サービス パラメータ	説明
Maximum File Size (MB)	次のファイルが作成されるまでの、各トラブルシューティング パフォーマンス監視ログ ファイルの最大ファイル サイズを MB 単位で指定します。「Maximum File Size」を大きな数値に設定する場合は、「Maximum No. of Files」を小さくすることを推奨します。  必須フィールドです。  デフォルト設定 : 5 最小値 : 1 最大値 : 500
<b>Cisco Serviceability Reporter</b>	
RTMT Reporter Designated Node	RTMTReporter が実行される指定ノードを指定します。 RTMTReporter サービスは CPU に負担がかかるため、このノードには、通話処理ノード以外を指定することを推奨します。このフィールドには、Reporter が最初に開始されたローカル ノード IP が自動的に入力されます。  必須フィールドです。
RTMT Report Generation Time	Real-Time Monitoring Tool (RTMT) レポートが生成される時刻を、深夜 0 時 (00:00) からの時間 (分単位) で指定します。通話処理への影響を減らすため、リアルタイム以外のレポートは業務時間外に実行してください。  必須フィールドです。  デフォルト設定 : 30 最小値 : 0 最大値 : 1200
RTMT Report Deletion Age	レポートが削除されるまでに経過する必要がある日数を指定します。たとえば、このパラメータを 7 に設定した場合、7 日前に生成されたレポートは、8 日目に削除されます。値に 0 を指定すると、レポートの生成が無効になり、既存のレポートはすべて削除されます。  必須フィールドです。  デフォルト設定 : 7 最小値 : 0 最大値 : 30

